

まえがき

我が国には、橋長15m を超える主要な橋梁だけでも約15万橋存在しており、これらの橋梁の大半は、1950年代中盤の高度経済成長期以降に集中的に建設されている。このため、これらの橋梁が架替や大規模な補修・補強を必要とする時期を一斉に迎えることになると危惧され、将来における道路橋の更新、維持管理費の抑制は重要な課題となっている。

こうした状況を踏まえ、本研究室ではデータに基づく科学的な道路資産のあり方について検討している。道路橋の将来の健全度等の予測は、将来の更新・維持管理に要する費用を予測し、それらを低減、平準化をするための検討において、重要な情報の一つである。ここでは、計画的管理に必要となるアセットマネジメントについて、現在直轄道路橋にて運用されている橋梁マネジメントシステム（BMS）のうち、健全度（劣化）予測等の手法を紹介するものである。

本資料のとりまとめに際しては、点検データの提供など各機関に多大なるご協力をいただいた。ここに謝意を表する。

注：直轄道路橋の BMS は、道路局及び地方整備局から構成される検討委員会において開発されたものである（下表参照）。

橋梁マネジメントシステム開発の経緯

	検 討 内 容
H 1 3 年度	○基礎調査の実施 ○アセットマネジメント検討委員会発足
H 1 4 年度	○アセットマネジメントシステムの構築着手
H 1 5 年度	○健全度（劣化）予測モデルの検討 ○全国 1 1 事務所で試行
H 1 6 年度	○試行結果を踏まえた劣化予測モデルの見直し ○システム導入方法の検討
H 1 7 年度	○全事務所で試行運用開始